

令和2（2020）年度第1回総合教育会議概要

日 時：令和3（2021）年2月18日（木）15：37～16：50

会 場：柏崎市役所4階 4-3会議室

出席者：櫻井市長、近藤教育長、阿部教育委員、米谷教育委員、三嶋教育委員、梅田教育委員、事務局（石黒総合企画部長、伊部総務課長、飯田教育部長、徳間教育総務課長、山田学校教育課長、伊比教育総務課課長代理）

傍 聴：なし

1 開会挨拶

（市長） 本日は、第1回総合教育会議ということで、教育委員の皆様にお集まりいただきました。教育をめぐる環境は、コロナの影響を大きく受けて、私たちも考え方もしくは方法等を変えざるを得ない、余儀なくされています。ただ、大事なのは、柏崎市に住む子供たちの教育をとにかく少しでも、学力も、また、心の面、体の面も大きく育ててあげたい心持ちは、共通のところであると思います。柏崎市の教育行政を皆様方から担っていただいているところでもあります。短い時間ではありますが、忌憚なく意見交換をしていただければと思います。

2 議事

（1）児童生徒数の見込みについて

（事務局）「児童生徒数の見込みについて」全市の小中学校の10年前（平成22（2010）年度）と現在（令和2（2020）年度）を比較すると児童数が907人減少、生徒数が552人減少、児童生徒数全体では、1,459人、約20%減少した。また、10年前と6年後（令和8（2026）年度）では、児童生徒数全体では、1,986人、約29%が減少する。以上を踏まえて今後の教育委員会の取組の方向性について説明した。

（市長） 児童生徒数の推移を見れば小中学校は、非常に厳しい状況である。意見等をお聞かせ願いたい。

（阿部） 人口減少に伴う児童生徒数の減少については、打開策はないと思う。望ましい教育環境を考えるしかないと思う。少人数に対して多くの教職員がいることが望ましいのか。また、大きな中で競争意識を芽生えさせるのが望ましいのか。学区で分けるのではなく、ある程度個人に選択肢を与える環境も良いのでないか。

（梅田） 小規模校だとできないことばかりに視線が行ってしまったが、地域、学校、保護者も小規模校だからできることに転換しながら、いろいろな活動に取り組んでいる。しかし、一番不安になるのが複式学級になったときの学習方法や学力低下、教員数の減少である。また、学校が存続するのか。子育て環境があるのか。若い

人たちが地域で生きていく上では、重要な場面である。小規模校に子供たちが来てくれる取組をしているが活動だけでは難しい。地域としては、この先どのような計画で行くのか見通しを持たたほうが良い。

第五中学校との統合は、中学生の成長に合わせて、つながりが広がったのでとても良かったというのが保護者や地域の意見としてある。しかし、小学校は、地域で温かく育みたい。ただ、高校に入ると競争の世界に慣れていない部分はあると思う。

(米谷) 学校は、地域への配慮もあるが、子供たちにとって望ましい教育環境を最優先にすべきと思う。小規模校と大規模校のメリットとデメリットがはっきり分らないが、一人一人に視線が行くのは小規模校であるが、集団活動（運動会・合唱会）になると別のものになる印象は、持っている。学校も工夫して開催しているのでどちらも良いが教育環境としては、違うものと感じている。

子育て世代にとって、柏崎が魅力的な場所であることが、これから大事だと思う。教育環境が安定し独自の魅力があれば、子育て世代のUターン等のきっかけになり得ると思う。コロナ禍で都会の環境が良いわけではないという機運も出てきている。

(三嶋) 西山町を見ると、アパートに住んで幼稚園に行く方がかなりいる。子育てしやすいとか、人が良いと言われる。しかし、小学校に上がる時に家を建てるのが土地の関係で難しい。隣の出雲崎町は、子育て世代に支援をしている。土地を格安で提供するなど手厚くしている。そのため、出雲崎町に引っ越していく方もいる。また、柏崎の市街地に移住する方もかなりいる。そのため、世帯数も増えず、高齢者世帯が多くなっているのが現状である。

(市長) 出雲崎町の施策で「てまり団地」は、非常に安く分譲している。しかし、子育て施策は、柏崎のほうが教育環境も含めて良い。

令和8（2026）年の小学校全学年の児童数で一番多い学校は、比角小学校が473人、次が田尻小学校で391人、少ない学校は高柳小学校が12人、米山小学校は11人となる見込みである。中学校も深刻で、第五中学校が全学年で25人である。これは、柏崎翔洋中等教育学校に行かないことを想定した数字である。地域のこともあるが、子供たちにとって何が一番良いか。部活動のこと、人間関係も含めて考えなければならない。以上のことを考えると、今から、教育委員会の取組の方向性として、学区等審議会を立ち上げて、統廃合のことも視野に入れて考えなければならない。

今年あたりから市民の皆さんに柏崎市の現状を周知していきたいと思う。

(阿部) 周知をして、今後どうするかを話さないと進展しないと思う。理解をいただいて統廃合もあるが、5年先のことを考えるのであれば、アフターコロナで自治体の取組で移住者が多くなることなど、教育委員会だけでなく全庁的に取り組むべ

きである。

(市長) 広報かしわざきを活用して、子育て施策も含めた特集を4ページくらい使って周知したほうが良いかもしれない。また、それを元気発信課がSNSで首都圏の方々に発信する。

(三嶋) 先日、テレビで宇宙留学をやっていたが、種子島に留学する内容であった。関東の人が1年間ホームステイしながら種子島の小学校で過ごす。面白い内容だった。例えば、佐渡であれば魅力を求めて行く人もいる。学力ではなく、このように育ってもらいたいと思う人も多い。都会に慣れない人を受け入れる施策も面白いと思う。

(市長) 以前、高柳でやっていたようだった。

(梅田) グリーンツーリズムでやっていたと思う。

(三嶋) 教育特区でやれたら面白いと思う。

(市長) 上米山小学校がやっていた。学区とは違うところから通っていた。

(米谷) 今の若い世代は、魅力的であれば田舎にも帰って来るし、楽しんでいける世代だと思うので、柏崎を魅力的にしておけば可能性はある。

(市長) 若い世代は、ライフスタイルを求めながらお金のことは言わない。ただ、圧倒的に、柏崎の高校を卒業してからの流出、特に女性の流出は著しい。

今、結論を出すことでないが、周知として、現状だけを示すのではなく、教育施策、子育て施策も示す。しかし、県内30市町村子育て施策は、ほとんど横並びである。

(2) 学校における諸課題について

(事務局) 学校における諸課題について、暴力行為の状況、いじめの状況と態様、不登校の状況について説明する。次に、学力の向上については、現在の柏崎市の学力は、おおむね全国、県平均並みである。これまでの家庭学習等の取組例及び「e-ライブラリー」(学習支援ソフト)の主な活用状況について説明する。最後に特別支援教育に関する課題について、在籍児童生徒数の推移及び増加の要因、今後の考え方について説明した。

(市長) 諸課題の説明を受けたが、アトランダムでよいので、質問や意見を受けたい。

(市長) 学力について、算数、小学校6年生で54の偏差値があったにもかかわらず、中学校1年生になると51になる。それぞれ残念ながら2~3ポイント下がる。

中学校の指導補助員、県内では、一番充実している。どのように分析しているのか。頑張っていたきたい。これからDXを進めるが、デジタルだけに頼るわけでないが、数学は大事な要素である。

(三嶋) e-ライブラリーについての使用状況を、市内の使用率が知りたかった。

(市長) タブレットの配置状況はどうか。

(事務局) 各校にほぼ配置した。

(三嶋) いじめ、不登校について、スクールカウンセラーがいると思うが、例えば、いじめの場合は、被害者がカウンセリングを受け、加害者はどうなのか。

(事務局) 状況によって、双方がカウンセリングを受けることはある。

(三嶋) いじめを減らすことは、難しいと思うが、対応策によって減らすことはできないか。各学校で対応していると思うが、事例案を共有していないのか。

(事務局) 学校では、定期的に場を作って学校間で情報共有する。件数を減らすというよりも、初期の段階で、細かい違和感の時点で認知して対応することになっている。たくさん発見してたくさん解決する方針で行っている。

(3) その他

(三嶋) 昨年と今年、文化審議会において、綾子舞を含む「風流踊」がユネスコ無形文化遺産への提案候補に選定された。また、今月5日に「登録文化財」の対象を無形にも広げる文化財保護法一部改正案が閣議決定された。

今後、地域の食文化や祭りなど、無形の文化財を保存、活用されれば、後継者問題、保護支援強化、柏崎の観光資源、地域活性化に可能性が広がると考え、期待している。市長の率直な御意見を聞かせてほしい。

次に、全国都道府県を見ると、県民の日があり、休日になっているところもある。しかし、新潟県には県民の日がない。学習指導要領には、郷土愛が盛り込まれていることから、柏崎市で、ぜひ市民の日を制定してみたいかでしょうか。各イベント開催、アクアパーク、市民体育館、アルフォーレ、博物館の無料など、市民から親しまれ愛される日があっても良いのではないかと思います。

(市長) 二田物部神社に伺って、初めて弓始式を行った。物部神社は、県の有形文化財、弓始式は文化財になっていない。私的には、無形文化財だと思う。

登録無形文化財として、市民の皆さん知らせ、特に子供たちにも知らせたい。

4年生の社会科の副読本にも載せたら良いと思う。デジタル化もする。

次の市民の日については、作るとすれば市制施行ということで7月1日になる。少し考えさせてほしい。今のところ市民の日を作るまでは至っていないが、市制施行の日が7月1日であることを含めて、それをきっかけに柏崎のことを、特に子供たちに考えてもらうようなきっかけを作れないか考えたい。

今年、柏崎港の開港50周年である。柏崎の全小学校6年生を対象に港から海上自衛隊の船に乗って沖合から柏崎を見てもらうよう予算計上している。

(市長) 中学校部活動の柔軟性を持った拠点化はどのようになっているか。

(事務局) 拠点化の意味を合同の部活動という考え方で進めている。市内でクラブチーム

を立ち上げる考え方があって、中体連と対応している状態である。

(市長) 学校を転校しなくても部活動のみ他の学校でできるということか。

(事務局) その方向で進めている。

(市長) その場合、交通手段はどうなるか。

(事務局) 平日は、自分の学校でやるかは、未解決の状況である。

(市長) 今、自転車通学をしているのは、どここの学校か。

(事務局) 第一中学校、鏡が沖中学校以外は、自転車通学者がいる。

(市長) 部活動の自転車利用を認めてあげれば良いのでないか。

(事務局) 各種目の連盟も力になってくれている。

(市長) 中体連の大会にも出られるのか。

(事務局) 話し合っている段階である。正式には、自由度を作ってほしい考え方を要望している。

3 閉会

(事務局) 本日、協議いただいた内容については、議事録にして、後日、市ホームページに掲載をさせていただく。

以上で令和2（2020）年度第1回総合教育会議を終了する。